

海賊

- 悪人からヒーローまでの道 -

序章 - 「パイレーツ・オブ・カリビアン」はカリブ海¹の海賊ではない-

広辞苑の定義では、「海賊」とは「海上を横行し、従来の船や沿岸地方を襲って財貨を強奪する盗賊」のことである。しかし、そのような定義は果たして正しいのだろうか。「海賊」というのは、本当に収奪や他の船を襲撃するものであったのだろうか。

海賊は古代でも活動したが、18世紀の海賊の黄金時代¹に世界的に活動するようになった。一般の人のイメージでは、「海賊」というものは、恐ろしい黒髭のようなものである。だが、海賊の中には様々な人が存在した。政治と協力する私掠船（ヘンリー・モーガンやフランシス・ドレーク）、またカリブ海に商船を襲う盗賊（バートロミュー・ロバーツやジョン・ラカム）など、いくつか例を挙げられる。ヨーロッパでは、海賊は主にカリブ海で活動し、アジアでは中国、また日本の沿岸を襲った。

また、海賊は、どんな時代でも、詩人や作家の創作の題材になり、現代の映画監督のインスピレーションになっていた。しかしながら、ポップカルチャーにおける海賊のイメージはかなり変化を経たものである。ロバート・ルイス・スティーヴンソンの「宝島」、「パイレーツ・オブ・カリビアン」のような映画、日本の『ONE PIECE』（ワンピース）のようなアニメや漫画、ポップカルチャーの海賊はおよそステレオタイプだらけの人々である。義足、眼帯、肩に乗せているオウム、そのような特徴が重なって表現されるため、実際に存在した海賊の実態はわかりにくくなっている。では、なぜ人々はポップカルチャーの海賊のイメージに信頼するのはなぜなのだろうか。海賊のイメージがそのように嘘だらけなのはなぜなのだろうか。また、本物の海賊（カリブ海の場合でも、アジアの倭寇の場合でも）はどのような人々であったのだろうか。

本論文では、Marcus Rediker、Robert J. Antony や田中健夫の研究に基づき、様々な歴史家などの意見を整理し、このような質問に答えたいと考える。

¹ ヨロッパで 1650 年から 1730 年まで。アジアで、江戸時代、つまり 16 世紀になっている。

第一章 - 「酷薄な悪人」か「ロマンチックなアイディアリスト」か-

カリブ海の王様達

Marcus Rediker によると、黄金時代に活動していた海賊は、自分の意思で戦うというより、自分の生き残りのために戦った。

海賊の問題は時代の基本的な問題を表していた（省略）。海賊になっていた貧乏な漁民は身分制の問題を表していた。海賊になった以前奴隷だったアフリカ人は、黒色人種の問題を表していた。海賊になった女性はジェンダーの問題を表していた。

海賊になったすべての人は「国民の政治的な悲劇を演奏した」。²

それだけでなく、Rediker が言う通り、時間が経つうちに、海賊のイメージは大きく変化した。

（イギリスと）スペインが戦争した時、多くの海賊は私掠船の活動を行った。（私掠船は）召し抱えのように、王様と協力し、敵艦を襲い、拿捕し、分捕った。

しかしながら、戦争後、王様はもう私掠船と協力しなくなかった。その反面、私掠船を統べるのもできなかった。一例を挙げると、1716年、海賊の一つのグループは、「フランス人やスペイン人と和平するつもりはない」と宣言した。そのため、フランス人やスペイン人の船を襲い続けた。また、同様の海賊のグループ、ベンジャミン・ホーニゴールドの乗組員は、「イギリス人やオランダ人でも突っ込まない」と言った。³

² Rediker Marcus. “Villains of All Nations: Atlantic Pirates in the Golden Age”, chapter “A Tale of Two Terrors”; Original citation: “The dramas involving pirates concerned the fundamental issues of the age. As we will see, poor seamen who turned pirate dramatized concerns of class. Formerly enslaved Africans or African Americans who turned pirate posed questions of race. Women who turned pirate called attention to the conventions of gender. And all people who turned pirate and sailed under “their own dark flag,” the Jolly Roger, enacted a highly political play about the nation.”

³ ↑; original citation: “Some [pirates] worked during the War of Spanish Succession as privateers—that is, they labored in private men-of-war, with commissions from the King, to attack, capture, and plunder enemies in wartime. Leaders of European nations used privateers to supplement naval power, to disrupt supply lines and commercial circuits, and to accumulate wealth at the expense of their rivals. But when the war ended, they found that they could not control the privateers they had once employed. In 1716 a gang of pirates, for example, announced, boldly and selfimportantly, that “they never consented to the Articles of Peace with the French and Spaniards” and would therefore continue to attack their ships. This very crew, captained by Benjamin Hornigold, added that “they meddle not with the English or Dutch.”

海賊は、個人的な考えでは、悪人や盗賊や無法者というより「国なし人」であった。自分の旗の下に、世界と戦争した。海賊は、海軍で働いていた人の憂身に強く反対した。そのような人は鞭打ち、暴力、瞞着などを我慢しなければならなかった。海軍の船長はしばしば圧制者で、自分の乗組員の恐怖心を利用し、命令した。それに対して、海賊は平等権に基づくコードブックに従い、皆で船長を選んだり、公平に分捕り品を分けたり、決定するとき皆で決定した。実は、海賊の船長の決定は一人の船員と同様な重要性を持っていた。歴史家 Angus Konstam によると、海賊は民主主義の意味は分からなかったが、民主主義のルールを守っていた⁴。船長が乗組員に対して悪いことをすると、乗組員は皆で新しい船長を選ぶことができた。そのため、船長でも、自分の乗組員を大切にしなければならなかった。

多くの海賊の目的は、敵艦の船員を殺すことではなかった。海賊の船がスピードのある小型のもので、主にヒットエンドラン(hit and run)という戦略を使った。ほとんどの場合、海賊は劫掠したとき、敵艦の船員が立ちすくんだ。その理由は、歴史家、E. T. Fox が言う通り、「ジョリー・ロジャー」、つまり海賊旗はおよそ死と強く関し、そのようなシンボルは、敵艦の船員の心を怖気づかせたということだ⁵。

今まで紹介した歴史家の立場から見ると、海賊は「酷薄な悪人」ではなかった。それでは、「ロマンチックなアイディアリスト」という捉えの方が正しいのだろうか。

確かに、海賊は「良い命は短いものだ」や「自分がしたいことをすることが、最も幸せだ」などのロマンチックな標語をよく言った。しかし、どのようにロマンチックでも、その言葉の影の中は、苦さがあった。海賊の活動は豊かな、良い命を約束したが、その命は長いものではなかった。平凡な海賊は海賊旗の下に2、3年間ほど活動し、その後ほとんどが絞首刑にされた⁶。

また、たとえ多くの海賊が平等観を中心に活動しても、人を殺したり、強奪したことがあった。18世紀に、海賊の強盗は海上貿易に頼る国の経済を覆すほど成功的なものであった⁷。一方、貧

⁴ „Pirates of the Carribean: The True Story”, History Channel Documentary, around 36 minute

⁵ ↑ around 20 minute

⁶ Rediker, pg

⁷ „Pirates of the Carribean: The True Story”, around 40 minute

乏の人のために戦い、反対に商人のカーゴを盗んだ。それだけでなく、カリブ海の貿易を非常に恐怖にさらし、投資家を遠ざけた。その他にも、多くの海賊は強奪した分捕り品を自分の娯楽に使い、特に人を助けなかった（酒屋や遣り手婆以外）。

すべての理由から、カリブ海の手盗は「酷薄な悪人」でも「ロマンチックなアイディアリスト」でも、どちらでもなかったと考える。私は、おそらくその真ん中に存在したと考える。

アジアの手盗船

最も早い南東アジアの手盗についての手記は 5 世紀になっているが、カリブ海の手盗と同様に、最も活動の激しい時期は 1750 から 1860 までであった⁸。ほぼ同時代であったが、日本の幕府はイギリスの王様よりそのような活動を大目に見た。17 世紀の中国の「明實録」(Míng Shílù)、つまり明王朝の歴代史は、日本の幕府と手盗の協力を証明している。しかし、手盗の専門家、田中健夫によると、「(手盗の) 構成員は日本人だけではなく、韓国人・中国人・ヨーロッパ人を含んでいる」という⁹。カリブ海の手盗と同じように、手盗は経済状態などに大きな影響を与えた。

日本史上の問題というよりも、東アジア史あるいは世界史の問題といったほうがふさわしい。手盗の活動は東アジア諸国の国内事情を母体とし、国際関係の歪みを引き金として発生し、大きな影響、大きな爪あとを中国大陸・韓国半島・日本列島・琉球列島・台湾・フィリピン・南方諸地域の諸国人民に残し、これら地域の歴史を変革しながら消滅していた。¹⁰

⁸ Antony Robert J. “Turbulent Waters: Sea Raiding in Early Modern South East Asia”, *The Mariner's Mirror*, 99:1, 23-38, 2013, pg 23

⁹ 田中 健夫 「手盗—海の手盗」(講談社) pg 3

¹⁰ ↑ pg 3

また、Xie Jie が言った通り、「倭寇と商人は同様の者であった。貿易が盛んだと、倭寇は商人になり、貿易が禁じられると、商人は倭寇になった」¹⁷。この記述は、倭寇の活動の曖昧さをうまく言い表している。

この章をまとめると、アジアでもヨーロッパでも、海賊の活動は強く経済や政治と関係し、貿易と戦争にも影響を与えた。この章の質問に答えれば、カリブの海賊も、倭寇も、政治家のゲームの「歩」のようなものであり、海賊にとって適正な叙述を見つけるのは無理だと考える。その理由は、全く性質の異なる、火と氷のような海賊が存在したので、皆を一般的な表現で描写できないということだ。

¹⁷ So, pg 214

第二章 - 女性の海賊。恋人、遊女、船長 -

ラカムの恋人

1720年に、ジャマイカの裁判所で知事ニコラス・ロウスと他のその関係者の人集りは、海賊の船長、ジョン・ラカム、とラカムの18人の乗組員を死刑宣告するために集まった。しかしながら、乗組員の中で2人は妊婦だという理由で、死刑を延長するように裁判官に頼んだ。裁判官は、事実を調べ、2人の海賊が本当のことを言ったと判断した。その2人の女性、アン・ボニーとメアリ・リードは、裁判官に執行猶予をもらった¹⁸。

アン・ボニーもメアリ・リードも勇敢な女性であった。ラカムの船は海軍に襲われたとき、一人の男性しか酔っておらず、女性と一緒に戦ったが、主な船の守護人はボニーとリードであった。その後、ラカムが絞首刑にされたとき、ボニーがかれの顔を見ると、「あなたをここで見るのは悲しいが、以前男らしく戦っていたら、今犬のように死なないだろう」と言ったという¹⁹。

Marcus Redikerの本の『The Tryals of Captain John Rackam and Other Pirates』の記述は女性の性格を描写する。

(女性は) 上着を着、ズボンをはき、頭にハンカチをしていた。2人とも刀も持ち、ピストルも持った。それだけでなく、2人とも男性のように悪態をつき、悪口を言った。²⁰

すべての事実を読んでも、船で活動した女性のことを信じられない読者もいる。確かに、航走はおよそ男性の世界だったが、様々な歴史家は近年女性の船員のことについて新しい情報を見つけている。船に乗せていた女性は様々な活動をし、乗組員、メイド、奥さん、遊女、コック、商人、時には、船長の場合もあり、様々な役割をしたということである。アン・ボニーもメアリ・リードもラカムの恋人であり、ラカムより良い海賊であったという事実を海軍の襲撃のとき証明した。だが、その二人の女性より、さらに素晴らしい海賊の女性がアジアで活動していた。

¹⁸ "True Carribean Pirates: Henry Morgan to Blackbeard", History Channel Documentary, around 78 minute

¹⁹ "I am sorry to see you here, but if you had fought like a Man, you need not have to be hang like a Dog."

²⁰ Rediker, pg

鄭一の妻

鄭一嫂の歴史は中国の南で始まった。広州の港は飛躍的に最も重要な貿易の拠点になっていた。そこで、鄭一と呼ばれた成功した海賊が美しい鄭氏（Zhèng Shì）の妓女に会った。鄭一は鄭氏の美に心を奪われ、自分のものにしたかったが、鄭氏が彼の目をほとんどひっかきつづした。そのとき、鄭一はすっぱりと恋に落ち、鄭氏を自分の意思で彼と結婚するように頼んだという。ただの妓女でも、鄭氏は海賊戦隊の半分、収奪した分捕り品を自分のために使えるという2つの要求を行い、その需要は同意された²¹。

女性は非常に成功した海賊になっていた。鄭一が台風で死んだ後、すべての海賊戦隊、300 船、の船長になった²²。新しい階位を強化するため、鄭一嫂が厳しいコードブックを導入し、自分の力で乗組員に印象付けた。コード規則は簡単であった。まず、鄭一嫂の命令を無視した場合、または自分で命令した場合、首を切られることになっていた。また、公金や海賊を応援した百姓から盗むのは禁断のことであり、すべての分捕り品は登記された。その他、女性向けの規則は非常に親切であった。一例を挙げると、結婚した場合を除き、女性との姦淫は禁じられていた。

（海賊は）捕らわれた女性を尊い、最も美しい者と結婚する。一人の女性と結婚したあと、海賊が他の女性と関係することは禁じる。結婚相手とならなかった女性はほとんどが家に帰った²³。

鄭一嫂の戦隊は、長い間収奪し、諸国の海軍（イギリスやポルトガルを含む）を襲い勝った。中国の海軍は 60 船以上を失った。鄭の取り締まりを諦めた皇帝は 1810 年に、すべての分捕り品を戻すことを求めず、恩赦を持ち掛けた。鄭はその条件に賛成し、「退職」した。その後、1844 年に、69 年で死んだ²⁴。

いうまでもなく、鄭は女性であっても海賊の活動をしており、男性と同様に強奪を行っており、成功したということがわかる。

²¹ Murray Dian. "Pirates of the South China Coast, 1790-1810". Stanford University Press, 1987, pg 71

²² ↑

²³ "Bandits at Sea: a Pirates Reader", edited by C.R. Pennell. New York University Press, 2001, pg 272

²⁴ <http://edition.cnn.com/2007/LIVING/worklife/08/27/woman.pirate/index.html>

第三章 - 金の王座に座り、頭骨から血を飲む。ポップカルチャーの海賊 -

眼帯、義足、手の代わりにフック

ポップカルチャーの海賊のイメージにおいて、最も大きな嘘は、海賊の風貌だ。「パイレーツ・オブ・カリビアン」や「宝島」を見ると、海賊は非常に色とりどりの衣服を着て、ファンシーな帽子などを被る。他の私たちのよく見る海賊の様子は足無し、手無し、または眼無し者もいる。確かに、海賊の活動は危険なことなので、注意しないと、体の一部分を失うことはそれほど珍しくなかった。海上戦のとき、キャノンボールで打たれた船の木片が船員に怪我をさせることは容易であった。しかし、海賊の船には医師がいなかった。傷だらけの足に病原菌が入ると、けがをした人が死んだ。このような事態を防ぐために、傷だらけの足を切断したのである²⁵。だが、手術された海賊はほぼ命を失った。または、壊疽で死んだ人も多かった²⁶。歴史家は上の嘘が流行した理由を示す。一例をあげると、ロバート・ルイス・スティーヴンソンの「宝島」の登場人物、ジョン・シルバーである。「宝島」の片端の海賊は、長い期間、海賊のステレオタイプになり、「宝島」の後に作られた映画でそのイメージは重ねられ強化されてしまった。それでは、そのようなイメージはすべて嘘なのだろうか。

確かに、足や手を切断された海賊が存在した。しかしながら、映画や本のイメージと同様ではなかった。例えば、眼帯を使ったのは、眼無しの海賊ではなかった。実は、眼が健康な海賊であっても眼帯をした。この理由には、三つの説がある。一つ目は、眼帯は心なし船酔いを減少させた。二つ目は、眼帯をすることによって暗さに目を慣らしておいたという。暗い船室に入った場合は、良く見えて行動しやすかった。三つ目の説が最もありえそうな話である。それは、海賊が眼帯をしたのは、キャノンボールで撃たれた船の木片が眼に入るのを防ぐためというものである。

フックの嘘はジェームス・マシュー・バリーの戯曲、「ピーター・パン」に出てくる登場人物、フック船長のせいで流行した可能性が高い。

²⁵“The Golden Age of Piracy: Terror at Sea”, BBC Documentary, around 25 minute

²⁶ ↑, around 27 minute

肩で乗せたオウムや猿

ポップカルチャーの海賊のイメージを見ると、各船長や乗組員の一人は好きなペットを持っている。「ピーター・パン」のフック船長も、「宝島」のジョン・シルバーもオウムを持ち、「パイレーツ・オブ・カリビアン」のバルボッサ船長は「ジャック」と呼ばれた猿を飼っていた。日本の「ONE PIECE」という漫画でも、ペットのような動物が出ている。では、海賊が船にペットを飼っていたのだろうか。

実は、熱帯へ行った船員達は、オウムや猿を捕まえて、帰国し、動物を売ったという²⁷。オウムが人気があった理由は色の美しさと言葉を真似することであった。猿に悪戯を教えることができた。それだけでなく、この二匹の動物は他の野生生物と違い、お嬢様にとって触りやすくてかわいい鳥獣であった。そのため、船員達はこの動物を帰った後、高い値段をつけ売ったり、贈り物にしたりした。しかしながら、海賊は自分の「ペット」を持たなかったに違いない。船に猫がいた時があったが、その理由は猫がネズミを殺し、役立つ動物であったからである。また、黒猫が船にいと、運がよくなると信じた乗組員も存在した。そして、船員も海賊も船に鶏や豚など、食べられる動物も飼っていたという²⁸。

ポップカルチャーの嘘は確かに多いが、本論文で主に考察対象としているのは、本物の海賊のことである。そこで、どうしてポップカルチャーは海賊の嘘だらけのイメージを何回も重ねていってしまうのだろうか、という疑問が出てくる。

先ず、既に作られた決まり文句、すなわちクリシェをまた使うのは便利である。そのため、監督や作家は、同じような海賊のイメージをコピーし、自分の作品で使う。次に、本物の海賊の生活や活動は人が思うより退屈なルーチンが含まれていた。監督や作家は、エンターテインメントに富んだ作品を作るために、普通つまらない出来事を少し「面白くする」。「ONE PIECE」のような少年向け長いシリーズか若者に向けられた「パイレーツ・オブ・カリビアン」のよ

²⁷ Top Pirate Movie Myths Debunked: FilmStrip

²⁸ <http://pirates.hegewisch.net/animals.html>

うな映画は、およそジェットコースターのような筋立てが必要である。したがって、現在でも、事実ではなく、嘘やファンタジーが海賊ストーリーの基礎になってしまっている。

結章 - ポップカルチャー、本物の悪人 -

以上、海賊について広く信じられている間違いを紹介した。本論文の最初に提示した質問の答えをまとめてみよう。

最初に、第一章は海賊の性格の問題を示した。多くの人信じられるイメージ、つまり「荒くれ者」、または「海上のロビン・フッド」は本物の海賊のイメージではない。様々な立場から見ると、海賊は「血もない涙もない悪人」から、「ロマンチックなアイディアリスト」まで、対立する側面があった。密貿易に巻き込まれた倭寇、政治と協力する私掠船、海軍に反対する無法者、死をからかう狂人、そのすべての描写が適切であって、同時に適切ではない。海賊の性格の複雑性は一つの正しい定義を作ることを拒むものである。

次に、第二章の海賊女性海賊の問題をみてみよう。女性海賊が活動した理由は、あらゆる解放運動と同様の理由になっている。女性は自分の力を見せるため、男性の衣服を着て、船員になった。最も成功した女性海賊の鄭一嫂の活動は、女性たちに自信を与えた。メアリ・リードやアン・ボニーは現在のフェミニストにとって、大事なフィギュアになったかもしれない。

最後に、第三章でポップカルチャーの海賊のイメージを紹介し、間違いを示した。人気がある映画・アニメ・本の中、およそすべての媒体で、嘘だらけのイメージを重ねられてしまっている。ポップカルチャーのイメージと本物のイメージを対比すると、反対のものも現れる。そのため、自分が選んだ映画や本を見る・読む場合、気を付けなければならない。そうしないと、自分が嘘を信じ込んでしまう可能性がある。

すべての理由から、海賊は悪人でも、聖者でもなく、様々な性格があった者であったと考える。歴史家の意見を整理していく過程で、海賊の曖昧さ・きっかけ・刺激が明らかになった。ポップカルチャーのイメージを信頼せず、ドキュメンタリー映画などの事実に基づいたものを信じた方が良いと考える。自分が見た・読んだものは真偽不明だと思ったら、それを認めることである。そのようなアプローチをすれば、本当に興味深い海賊のイメージが分かるようになると思う。

参考文献

1. Rediker Marcus. "Villains of All Nations: Atlantic Pirates in the Golden Age". Beacon, 2004.
2. Robert J. Antony. "Turbulent Waters: Sea Raiding in Early Modern South East Asia",
The Mariner's Mirror, 99:1, 23-38, 2013
3. 田中 健夫 『倭寇—海の歴史』 (講談社)、 1982
4. So Kwan-wai. "Japanese Piracy in Ming China during the 16th Century". Michigan State
University Press, 1975.
5. History Channel Documentary , "Pirates of the Carribean: The True Story"
6. BBC Documentary , "The Golden Age of Piracy: Terror at Sea"
7. Murray Dian. "Pirates of the South China Coast, 1790-1810". Stanford University Press, 1987.
8. "Bandits at Sea: a Pirates Reader", edited by C.R. Pennell. New York University Press, 2001.
9. History Channel Documentary, "True Carribean Pirates: Henry Morgan to Blackbeard", 2006.
10. "Bandits at Sea: a Pirates Reader", edited by C.R. Pennell. New York University Press, 2001.
11. BBC Documentary, "The Golden Age of Piracy: Terror at Sea"
12. Top Pirate Movie Myths Debunked: FilmStrip; Aavailable on YouTube:
<https://www.youtube.com/watch?v=n25TUsBM-OM>
13. <http://pirates.hegewisch.net/animals.html>
14. <http://edition.cnn.com/2007/LIVING/worklife/08/27/woman.pirate/index.html>